

第 1 講

【文法】時制①



時制①

【文法事項まとめ】

1. 時制

① 現在時制

1. 習慣的動作(※動作動詞のみ)

現在を中心として過去から未来へと動作が反復されることを示します。

[例] I go to school by train.

「私は電車で学校に通っている」

注意 日本語の「～する」は、未来のことを表すこともできるので注意が必要です。たとえば「私は走る」という日本語は(1)毎日の習慣、(2)今からする動作、の2つの可能性があります。文脈によって判断しなければなりません。

[例] I teach English.

「私は英語の教師です(←私は普段英語を教えています)」

注意 動作動詞の現在時制は、[例]のように職業を表す場合にも使えます。疑問形はWhat do you do (for a living)?「お仕事は何ですか(←生計のため、普段何をしていますか)」となります。

2. 電車などの定時の発車時刻、店の開店時刻などを示す(※動作動詞のみ)

[例1] The train *leaves* at nine o'clock. 「その列車は9時に出ます」

[例2] Our shop *opens* at eleven o'clock. 「当店は11時から開店します」

[例3] School starts in September in the U.S. 「アメリカでは学校は9月に始まります」

注意 The train will leave[is leaving] at nine o'clock.のように、特殊な事情で出発時刻に変更があった場合には、未来時制や現在進行形(確定的な未来を表す)も使います。

3. 現在の状態(※状態動詞のみ)

[例1] I *am* in the tennis club. 「私はテニス部に属しています」

[例2] I *love* you. 「私はあなたを愛しています」

4. 瞬間的現在(※動作動詞のみ)

(1)実況・実演 (2)出現 (3)遂行動詞による遂行文

[例1] Then we *add* three cups of flour. 「それから、小麦粉を3カップ加えます」

[例2] Here *comes* the sun. 「ほら、太陽が出てきた」

[例3] I *promise* to do this. 「私はこれをやると約束します」

注1 (1)「実況・実演」は、料理教室での先生の発言、あるいは手品師の客に対する発言などで出てきます。

注2 (2)「出現」は、ほとんどがHere comes ~.の形です。~が代名詞の場合は、Here ~ come(s).となります。

注3 (3)「遂行動詞」は、発言した時点で動詞の示す行為が完了し、行ったことになる動詞です。

[例] promise ~「~を約束する」、admit ~「~を認める」、apologize「謝る」、complain「不平を言う」、congratulate「~を祝福する」、estimate ~「~を見積もる」、insist「言い張る」、suggest ~「~を提案する」、thank ~「~に感謝する」

【補足】 状態動詞と動作動詞

動詞には「状態動詞」と「動作動詞」の2種類があります。状態動詞は、動詞そのものに「～している」という意味がある動詞のことです。一方、「動作動詞」とは、「～する」という意味の動詞のことです。単語の意味を暗記する際には、その動詞がどちらかを意識してきちんと覚えておく必要があります。

understand ～ (状態動詞)「～を理解している」 ×「～を理解する」

walk (動作動詞)「歩く」 ×「歩いている」

<状態動詞の種類>

1. 知覚・感覚を示す

[例1] He **looks* happy. 「彼は幸せに見える」

[例2] The fruit **smells* sweet. 「そのフルーツは甘い香りがする」

[例3] This cake **tastes* good. 「このケーキはおいしい」

2. 認識・感情を示す

[例1] I *know* him very well. 「私は彼のことはよく知っています」

[例2] I *like* dogs. 「私は犬が好きです」

[例3] I *understand* you. 「私はあなたの言うことを理解しています」

3. 所有・存在を示す

[例1] I *am* Japanese. 「私は日本人です」

[例2] This hat *belongs to* her. 「この帽子は彼女のものです」

[例3] This dog **has* a long tail. 「この犬の尾は長い」

4. 位置・関係を示す

[例1] My house **stands* alone. 「私の家は一軒家だ」

[例2] We **live* in Kyoto. 「私たちは京都に住んでいる」

[例3] She **resembles* her mother. 「彼女は母親に似ている」

注意 *のある動詞は「動作動詞」としても使えます。

例：look「見る」、smell「～のおいをおく」、taste「～の味をみる」、have「～を食べる」、stand「(人が)立つ」、live「(一時的に)住む」、resemble「(進行形で)似てくる」

※ 動作動詞と状態動詞の例

[動作動詞の例]		[状態動詞／形容詞の例]	
put ~ on	「～を身につける」	wear ~	「～を身につけている」
open (動)	「開く」	be open (形)	「開いている」
close (動)	「～を閉める」	be closed (形)	「閉まっている」
look at ~	「～を見る」	see ~	「～が見えている」
listen to ~	「～を聴く」	hear ~	「～が聞こえている」
catch a cold	「風邪を引く」	have a cold	「風邪を引いている」
marry ~	「～と結婚する」	be married to ~	「～と結婚している」
fall asleep / go to sleep	「眠る」	sleep	「眠っている」
join ~	「～の仲間に入る」	belong to ~	「～に所属している」
get to know ~	「～を知る」	know ~	「～を知っている」
become + 名詞・形容詞	「～になる」	be + 名詞	「～である」
get + 形容詞	「～になる」	be + 形容詞	「～である」
get on ~	「(電車など)に乗る」	be on ~	「(電車等)に乗っている」
get used to ~	「～に慣れる」	be used to ~	「～に慣れている」
borrow ~	「～を借りる」	owe ~	「～を借りている」
move to ~	「～へ引っ越す」	live in ~	「～に住んでいる」

[例1] We wear school uniforms.

「私たちは制服を着用しています」

[例2] I put on a scarf before leaving home.

「私は外出の時にはマフラーをつけます」

[例3] I heard his speech.

「私には彼の話が聞こえた」

[例4] I listened to his speech.

「私は彼の話に耳を傾けた」

[例5] I saw him.

「私に彼が見えた」

[例6] I looked at him.

「私は彼を見た」

2 過去時制

1. 動詞の過去形+過去を示す副詞(句, 節)

「ある過去の出来事」を誰かに伝えるときには、普通は、「さっきね」「今日ね」「昨日ね」などの過去の副詞(句・節)を伴います。英語も同じで、話を始める最初の文では過去を示すのに副詞を伴うのが普通です(第2文以降は不要です)。下の例の下線つきのイタリックになっている語が過去を示す副詞(句・節)です。

[例1] World War II *ended in 1945.*

「第2次世界大戦は1945年に終わった」

[例2] We *gave* a concert *in April.*

「私たちは4月にコンサートを開催した」

[例3] We *went* out for dinner *on Friday.*

「金曜日に私たちは夕食に出かけた」

[例4] I *met* him *yesterday.*

「私は昨日彼に会った」

注意 「月・年」はin, 「日・曜日」はonで表します。yesterdayはそれ自体が副詞なのでonは不要です。またyesterdayは単独で使われるほか, yesterday morning / yesterday afternoon / yesterday eveningでも使われます。

[例5] I *bought* this watch *last week.*

「私はこの時計を先週買った」

注意 last night, last week, last month, last year, last spring, last summer, last fall, last winter, last Monday, last Tuesdayなどの場合には前置詞はつけません。

[例6] I *borrowed* this book *five days ago*.

「私はこの本を5日前に借りた」

注意 agoは単独では使えず～ agoの形で使います。～にはfive minutes「5分」、two hours「2時間」、three years「3年」などが置かれます。

[例7] I *traveled* to Italy *in my twenties*.

「私は20代の頃、イタリアに旅行した」

[例8] I often *went* to the movies *when I was in school*.

「私は学生の頃、よく映画を見に行った」

注意 [例7][例8]のように、in my teens「10代のときに」、in my twenties「20代のころ」、in my high school days「高校のときに」、as a child「子どものころに」、when I was young「若い頃」などの副詞句や副詞節を使うことがあります。

③ 動詞の過去形と過去分詞形

1. 規則変化動詞の過去形・過去分詞形の作り方

原則(1)：普通の単語 → edをつける

[例1] help「～を助ける」→ helped [例2] count「～を数える」→ counted

[例3] rain「雨が降る」→ rained [例4] need「～を必要とする」→ needed

注意 [例1][例2]は〈2子音字〉で終わっている単語で、[例3][例4]は〈2母音字+1子音字〉になっている単語です。

原則(2)：〈1子音字+e〉で終わる単語 → -dだけをつけます

[例1] close「閉める」→ closed [例2] name「～を名付ける」→ named

原則(3)：〈子音字+y〉で終わる単語 → yをiにかえ、-edをつけます

[例1] study「勉強する」→ studied [例2] carry「～を運ぶ」→ carried

原則(4)：〈母音字+y〉で終わる単語 → そのまま-edをつけます

[例1] play「遊ぶ」→ played [例2] enjoy「を楽しむ」→ enjoyed

原則(5)：〈1母音字+1子音字〉で終わる単語 → 子音を重ねて-edをつけます

[例1] stop「止まる」→ stopped [例2] regret「～を後悔する」→ regretted

[例3] occur「生じる」→ occurred [例4] prefer「～のほうを好む」→ preferred

注意 〈1母音字〉の上にアクセントがない場合には、-edをつけるだけです。

[例] offer – offered「提供する」、differ – differed「異なる」、

wonder – wondered「不思議に思う」、limit – limited「～を制限する」

2. 規則変化動詞の過去形・過去分詞形の作り方

①	A A A型	[例] cut-cut-cut	「～を切る」
②	A B A型	[例] come-came-come	「来る」
③	A B B型	[例] sit-sat-sat	「座る」
④	A B C型	[例] go-went-gone	「行く」

Point 以前は、動詞のgoの活用変化はgo-goed-goneでした。ところが、15世紀ごろに別の動詞wend「ゆっくり歩いて行く」(went-went)と混同されはじめ、もともとgoの過去形だったgoedが使われなくなりました。そして、goの過去形であるgoedはwendの過去形であるwentに取って代わられることになったのです。このような、まったく語源の異なる形の形態が入り込む現象を「補充」(suppletion)と呼びます。

4 動詞の進行形

進行形は、be動詞と一般動詞が融合された形です。進行形にできる動詞は動作動詞のみです。

1. 進行形=be動詞+(V)ing

[例1] He *is cleaning* the room.

「彼は部屋を掃除しています」

[例2] It *is snowing* now.

「今雪が降っています」

2. 助動詞+進行形=助動詞+be+(V)ing

[例1] He *must be cleaning* the room.

「彼は部屋を掃除しているに違いない」

[例2] She *may be listening* to music.

「彼女は音楽を聴いているのかもしれない」

注意 be動詞は助動詞の影響で原形不定詞(つまりbe)になります。

3. 進行形の否定

[例1] He *is not cleaning* the room.

「彼は部屋を掃除していません」

[例2] He *cannot be cleaning* the room.

「彼は部屋を掃除しているはずがない」

Point それぞれ、be動詞や助動詞を用いた否定文と同じです。

4. 進行形の疑問文

[例1] *Is he cleaning* the room?

「彼は部屋を掃除していますか」

[例2] *Can he be cleaning* the room?

「彼が部屋の掃除している可能性はありますか」

注意 それぞれ、be動詞や助動詞を用いた疑問文と同じです。

5 現在完了(その1):「完了」の意味の現在完了

1. 〈have+動作動詞の過去分詞形〉が「現在完了」の基本形

[例] I *have finished* my homework, and I can go out now.

「私は宿題を終えたので、今外出できる」

注意 何かをした結果が、現在に影響を与えている場合に用います。たとえ過去に起きたことでも、過去の副詞を伴うことは絶対ありません。過去の副詞を伴うときは、動詞は過去形にします。

I *finished* [×have finished] my homework two hours ago.

「私は2時間前に宿題を終えた」

2. 「完了」の意味の現在完了と共に使われる副詞

(1) just「ちょうど(～したばかりだ)」	注意 notの位置に置く
(2) already「すでに(～してしまった)」	注意 notの位置に置く
(3) yet「(疑問・否定文で)まだ(～していない)」	注意 notの位置か文末に置く

[例1] I *have just arrived* here, and I am tired.

「私は今ここについたばかりで疲れている」

[例2] I *have already reserved* a hotel room.

「私はホテルの部屋をすでに予約しました」

[例3] I *have not decided yet* [I *have not yet decided*], but I want to see the movie.

「私はまだ決めていないけど、その映画が見たいな」

3. 〈have+動作動詞の過去分詞形+over [in]+期間〉

[例1] This town *has changed over the last ten years*.

「この町はこの10年で変わった」

[例2] The birth rate *has decreased by 30% over the last ten years*.

「出生率がこの10年間で30パーセント低下した」

注1 over ～は「～の期間に、何か絶えず反復して起きた」ことに重点があり、in ～は「～の期間である動作が完了した」ことに重点があります。in ～は「今から～(期間)の後に」と未来の完了時点を表すのにもよく使われます。

注2 「この～年」という場合には、this ～ yearsやthese ～ yearsは使いません。the last ～ years,あるいはthe past ～ yearsとします。

⑥ 現在完了(その2):「経験」の意味の現在完了

1. 〈have + 過去分詞 + 回数を示す表現〉

[例] I *have eaten* venison **many times**.

「私は鹿肉を何度も食べたことがあります」

注1 単にI have eaten venison.とすると「今、鹿肉を食べたところです」という意味の「完了」の現在完了と勘違いされる可能性があります。よって、それを避けるために「経験」の意味であることを示す副詞(句)を足します。

注2 「回数」を示す副詞は、once「1回」、twice「2回」の場合にはtimeは不要です。「3回以上」の場合は〈～times〉とします。いずれも前置詞は不要です。また「(漠然と)以前に」とする場合はbeforeを補います。

注3 過去の副詞(句・節)を伴う場合は過去形になります。

I *ate* venison **many times** when I was in Hokkaido.

「私は北海道にいたとき、鹿肉を何度も食べたことがあります」

2. 〈have + ever + 過去分詞〉

[例1] *Have you ever eaten* bamboo shoot?

「今までに竹の子を食べたことがありますか」

[例2] This is the most exciting book I *have ever read*.

「これは私が今まで読んだ中で最もワクワクする本だ」

注意 「今までに～したことがあるか」というように、相手の過去の経験を尋ねる場合の表現です。ever = at any timeで、「いつでもいいが、もしあればいつか」が直訳なので、普通、肯定文ではなく疑問文で使われます。例外は[例2]のような〈最上級やfirstなどを伴う名詞 + S + have + ever + 過去分詞〉です。

3. 〈have + never + 過去分詞〉

[例] I have never ridden a roller coaster.

「私はジェットコースターに乗ったことが今まで一度もありません」

注意 neverは〈not + ever〉からできた語で、現在完了で使われると「今までに～1回もない」という意味の副詞になります。I have *not ridden* a roller coaster.とすると「完了」の「(今から乗るつもりだけど)まだ乗っていない」と勘違いされる可能性が高いと思われます。

7 現在完了(その3):「継続」の意味の現在完了

1. 〈have+状態動詞の過去分詞+for+期間を示す表現〉

[例1] We *have been* best friends **for five years**.

「私たちは5年来の親友です」

[例2] My grandfather *has been* dead **for ten years**.

「祖父が亡くなって10年になる」

[例3] **How long** *have you lived* here?

「ここにはどれくらいの間、暮らしているのですか」

注1 「ある状態が継続する」ことを意味する場合に使われます。

注2 [例2]のdeadは「死んだ状態で」を意味する形容詞です。[例2]を直訳すると「祖父は10年間死んだ状態にある」となりますが、日本語では「亡くなって10年だ」としたほうが自然です。

注3 期間を尋ねる疑問文は[例3]のようにHow long ...?とします。

2. 〈have+been+動作動詞の(V)ing+for+期間を示す表現〉

[例] Our sales *have been increasing* **for the last two years**.

「私たちの売り上げは過去2年間ずっと増えている」

注意 「動作動詞の進行形」=「状態動詞」の役目をします。一度も途切れることなく、ある動作が進行する場合に使われます。

3. 〈have+状態動詞の過去分詞+since S+V / since+名詞〉

[例1] I *have known* her **since she was** just a kid.

「私は、彼女がほんの子どものときから彼女を知っている」

[例2] **Since when** *have you lived* here?

「いつからここに住んでいるのですか」

注1 [例1]のように、sinceは「ある動作が開始した時点」を示す接続詞として、後ろに〈S+V〉を続けたり、前置詞として後ろに名詞を続けることができます。「10年前から」という意味でsince ten years agoと表すのは避けるのがよいでしょう。その場合は、for ten yearsを使って表現します。

注2 [例2]は〈have+been+動作動詞の(V)ing〉を用いることもできます。

注3 「いつから～するようになったの」と尋ねるときは[例2]のようにSince when ~?とします。

8 その他の完了形

1. 過去完了：〈had＋過去分詞〉

[例1] The lecture *had* already *started* when I got to the hall.

「私がホールに到着したときにはすでに講演会は始まっていた」

[例2] I was very nervous on the plane because I *had* never *flown* before.

「私はそれまで飛行機に乗ったことがなかったので機内ではとても緊張した」

[例3] I lost the wallet that I *had* *bought* last month.

「私は先月買った財布をなくしてしまった」

[例4] I *had* *been* *studying* for over two hours when he visited me.

「彼が私を訪ねて来たとき、私は2時間以上勉強していた」

注1 「ある過去の時点」より「以前」であることを表現する時には過去完了形が用いられます。「ある過去の時点」は必ずしも文中にあるとは限りません。

A: Why were you so excited at that time?

「なぜあの時あんなに興奮していたの」

B: Because I had never seen the actor in person.

「だって私はあの俳優を生で見たことなかったから」

注2 「時の順序」と「動詞の順序」が一致している場合には過去完了形は使われません。

The train left [~~× had left~~] the station and we *began* to eat lunch.

「列車が駅を出て、私たちは昼ご飯を食べ始めた」

※「列車が出た」→「昼ご飯を食べ始めた」の順序で時間は流れます。

2. 未来完了：〈will＋have＋過去分詞〉

[例1] I *will* *have* *finished* all this work by the time our boss *gets* back.

「上司が戻ってくるまでには、私はこの仕事を全て終えているだろう」

[例2] I *will* *have* *been* *studying* English for five years at the end of this month.

「私は、今月の末で、英語を勉強して5年になります」

[例3] This work *will* *be* *finished* [*will have been finished*] by noon.

「この仕事は正午までには終わるだろう」

注1 未来完了は主に次の用途で使われます。(1)「(しばしばby～を伴い)未来のある時点までに動作が完了している」ことを示す場合。(2)「ある時まで～の状態が続いている(しばしばfor～を伴う)」を示す場合。

注2 未来完了進行形は実際にはほとんど用いられません。

注3 受動態の場合には、〈will have been＋過去分詞〉となるのが原則ですが、しばしば、《will be＋過去分詞》で代用されます。

2. 時制の一致

① 時制の一致

日本語では「彼は私のことを好きだ(現在形)と言った(過去形)」のように、述部の動詞だけを過去形にしても問題ありません。ところが英語ではHe told (過去形) me that he loved (過去形) me. というように、述部の動詞(ここではtold)が過去形の場合、それ以外の動詞(ここではloved)も、述部の動詞に合わせて時制を変えなければならないというルールがあります。このルールのことを「時制の一致」と言います。

1. 主節の動詞が過去形、従位節の動詞も過去形

[例] He *told* me that he *loved* me. 「彼は私に、私のことが好きだと言った」

注1 主節の動詞がtoldで、従節の動詞がlovedです。

注2 実際の発言を使って書くとHe said to me, "I love you."となります。このように実際の発言を使った文を直接話法の文と言います。また[例1]のような文を間接話法の文と言います。

2. 主節の動詞が過去形、従位節の助動詞が過去形

[例] The dentist *told* me that I *would not feel* any pain.

「歯医者さんは、全く痛くないですよと私に言った」

注1 主節の動詞がtold、従位節の助動詞がwouldです。

注2 直接話法を用いて書くとThe dentist said to me, "You will not feel any pain."となります。


3. 主節の動詞が過去形で、従位節の動詞が過去完了形の場合

[例] Jean *asked* us how long we *had lived* in the town.

「ジーンは私たちにその町にどれくらい住んでいるのかと尋ねた」

注意 主節の動詞がtoldで、従位節のhad livedが過去完了形です。直接話法を用いて書くとJean said to us, "How long have you lived in the town?"となります。この従位節の時制は現在完了ですが、時制の一致をうけることで間接話法では過去完了にします。

▶ 文法問題にトライ！

 次の英文の空所に入れる適切なものを，選択肢から一つ選びなさい。

- 問1** “A group of boys and girls at the corner, laughing and joking.”
“I’ve heard there is going to be a charity concert around here.”
- ① are standing ② standing ③ stand ④ stands
-

- 問2** When walking on my way home, I suddenly felt I by someone.
- ① followed ② had followed
③ was being followed ④ was followed
-

- 問3** Robert his bike to anyone, so I was surprised when he said yes.
- ① doesn’t usually lend ② doesn’t usually borrow
③ isn’t usually lending ④ isn’t usually borrowing
-

- 問4** “There has been no rain for ten weeks and the tree .“We have to take some measures to save it.”
- ① has death ② has died ③ is dead ④ is dying
-

- 問5** the train for eight hours will be really tiring.
- ① Being on ② Boarding ③ Getting on ④ Riding
-

問6

“I hear Jeff doesn’t like to change clothes?”

“No, he an old red jacket day in, day out.”

- | | |
|-----------------|--------------|
| ① is putting on | ② is wearing |
| ③ puts on | ④ wears |

問7

A young girl sitting next to me on the train started to makeup.

- | | |
|-----------------|--------------|
| ① be putting on | ② be wearing |
| ③ put on | ④ wear |

問8

I some weight and the jeans I bought last year don’t fit me.

- | | |
|---------------|--------------|
| ① am gained | ② had gained |
| ③ have gained | ④ will gain |

問9

“Where are you going to eat lunch?”

“.

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ① I haven’t decided yet | ② I’m still not deciding |
| ③ I still don’t decide | ④ I wasn’t decided yet |

読解問題にトライ！

1 次の英文は、地域の公開討論会で行われた高齢者問題についての議論の一部である。空欄 1 ~ 3 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①~④のうちから一つずつ選びなさい。

Chair: Today's discussion is about how younger people should communicate with the elderly. We invited three panelists: Dr. McDonald, a medical doctor, and Mr. Johnson and Ms. West, who are researchers specializing in gerontology, or the study of the elderly. Mr. Johnson, can you start our discussion?

Mr. Johnson: Certainly. I often notice people communicate in a particular way with the elderly. People exaggerate their ways of speaking, for instance, by using a loud voice. Sometimes people speak as if they were talking to a child, but I wonder if older people really like this. In my observations at senior centers, even doctors and nurses employ this particular way of speaking. However, I wonder if this is a good way to communicate with them.

Chair: That's an interesting observation. You're saying that 1 . What do you think, Dr. McDonald?

- ① doctors and nurses often use too many technical expressions
- ② many elderly people are comfortable when they speak to doctors
- ③ medical professionals also speak differently to the elderly
- ④ some people can't communicate without speaking like children

Dr. McDonald: Well, as doctors, we have to be considerate when we talk to patients. We should adjust how we communicate with older people to make sure they understand what we say. Often, they can't hear well, so it's important to speak to them slowly and clearly. They need to understand us, so they can respond to questions we may have. I'm

sure they're grateful when they're addressed in this manner. I feel that when you meet a person who appears to be old, you should always show consideration by speaking in such a manner.

Chair: OK. Dr. McDonald, with his professional experience, thinks that 2. What are your thoughts on this point, Ms. West?

- ① age has nothing to do with speech style
- ② more intelligent words should be used
- ③ special attention should be paid to the elderly
- ④ the elderly should speak more slowly and clearly

Ms. West: I'm an older person myself, but I'm afraid I have to disagree with Dr. McDonald. He said he could tell who needs to be spoken to clearly and slowly from their appearance. I guess you base your judgment of older people on their slow movements, gray hair, and wrinkles. But that's a stereotype of the elderly. Some older people may not need any special adjustments during conversation. Rather, such adjustments may insult them. I don't want to be addressed like that, or stereotyped in that way.

Chair: Thank you. Ms. West's comments emphasize that our judgments of the elderly 3.

- ① don't determine our behavior
- ② don't hurt their feelings
- ③ should be based on their appearance and movements
- ④ shouldn't be made without careful consideration

2 次の文章の空欄 1 ~ 3 に入れるのに最も適当なものを、それぞれ下の①~④のうちから一つずつ選びなさい。

Indonesia is well-known all over the world for a special kind of cloth that is made in a very long and complex production process. It is produced by applying wax to some parts of the surface of a piece of cotton cloth and then dyeing it. When the cloth is put into the dye, the parts under the wax do not absorb the color; they resist the dye. This cloth is called *batik*.

1 Fine, smooth cotton cloth must first be washed and treated before the *batik* maker can begin to draw the designs on the cloth with a small pot of hot wax. Care must be taken to control the temperature of the wax and not to make a mistake in the design. If it is too hot, it will flow too easily, but if it is too cool, it will not flow at all. Both sides of the cloth are covered with designs in wax; then the cloth is dipped into a large container of dye. After the dyeing, the cloth is soaked in cold water, and the wax is removed with a knife. The same process is repeated for each color of the design.

The preparation of *batik* requires great skill. 2 Therefore, *batik* makers perform certain rituals to make sure they will be successful in waxing and dyeing the cloth. In some local areas, they even stay up all night for ceremonies before beginning the work.

The complex production process 3 . The unique patterns drawn in wax and the soft colors all combine to make this a special product. Although modern manufacturing methods can mass-produce cloth that looks like *batik*, for those who truly love *batik*, a genuine piece created by a skilled maker is a treasured work of art.

1

- ① *Batik* is used to make both modern and traditional clothes.
- ② *Batik* makers need permission to carry out the special process.
- ③ Many methods for decorating cloth exist in Indonesia.
- ④ There are many steps involved in the production of *batik*.

2

- ① However, that process is not so difficult.
 - ② Many things can go wrong during the process.
 - ③ Moreover, there is a faster and more efficient process.
 - ④ The *batik* making process can be found in several other countries.
-

3

- ① is not always needed to make true Indonesian *batik*
 - ② is not the only reason Indonesian *batik* is famous
 - ③ makes it difficult for Indonesian *batik* to be famous
 - ④ may be crucial for making the price reasonable
-

英作文で間違えやすいポイント

1 日本語に合うように、問1～問15の空所に最も適切な語句を入れなさい。

問1 電車で東北中を旅してきた。

I traveled all around Tohoku by

問2 アウトレットまで私の車で行った。

We went to the outlet mall my car.

問3 以前よりも海外に行きやすくなった。

It's now easier to go than ever before.

問4 彼女は列車の中でギターを弾いていた。

She was playing her guitar the train.

問5 作品に対する彼らの意見に賛成です。

I their opinion of the artwork.

問6 学校が終わったらすぐに帰れと言われた。

I was to go straight home after school.

問7 ネットで有名なスピーチを聴くのが好きだ。

I enjoy famous speeches online.

問8 かつて、言葉を使えるのは人間だけだと思われていた。

People used to think that only could use language.

問9 数年後、ようやく車を買うことができた。

After many years, I finally a car.

問10 友達から運動靴を借りた。

I borrowed sports shoes.

問11 電気自動車は年々増加している。

..... increasing every year.

問12 私は門限について親とよく対立する。

I often with my parents about my curfew.

問13 この動物を野生で見た人は少ない。

..... people have seen this creature in the wild.

問14 私たちは様々な日本の歴史を学んだ。

We learned about

問15 先生が大学について様々な情報をくれた。

My teacher gave me information about university.

英語耳をきたえよう！

英語の音声は、2回ずつ流れます。

1 対話を聞き、問の答えとして最も適切なものを一つ選びなさい。

問 When is the book report due?

- ① Tuesday
- ② Wednesday
- ③ Thursday
- ④ Friday

2 対話を聞き、問の答えとして最も適切なものを一つ選びなさい。

問 Where will the man and the woman meet?

